



【校長より】誰もが自分らしく、安心して笑える学校へ

～～ 「いじめ」と「いじり」の境界線、そして互いを認め合うということ ～～

生徒の皆さんが日々の授業や部活動、行事にエネルギーを注いでいる姿を見て、頼もしく、また嬉しく思っています。
本校が目指すのは、生徒全員にとって「明日もまた行きたい」と思える、安全で楽しい学校です。そのためには、ベースとなる絶対的な安心感が必要です。今回は、学校が最も大切にしている「人と人のつながり」について、私の強い決意をお伝えします。

◎ 「いじめ」は絶対に許さない

最初に、最も重要なことをお伝えします。**本校は、いじめを絶対に許しません。**

いじめは、された側の尊厳を傷つけ、心に深い傷を残す、決してあってはならない行為です。「これくらい大丈夫だろう」「冗談のつもりだった」という言い訳は通用しません。誰かが苦しんでいる、嫌な思いをしているという事実があれば、**私たちは全力を挙げてその生徒を守り、毅然とした態度で問題に対処します。**

◎ 「いじり」という名の刃（やいば）に気づく

最近、日常の人間関係の中で「いじり」という言葉をよく耳にします。

周囲を笑わせるため、あるいは親しさの裏返しとして、誰かの特徴や失敗をからかう。発言力の強い子や、場を盛り上げるのが得意な子が中心となって行われることが多い光景です。（無意識に行っているなど）

しかし、「いじり」と「いじめ」は紙一重、いえ、本質的には同じものになる危険を秘めています。

言われた本人が笑顔で合わせているように見えても、それは「場の空気を壊したくないから」「言い返すとさらにエスカレートするから」と、必死に耐えているだけかもしれません。

◎ 「人が嫌がることは、絶対にしない」

これは人間関係の原点です。自分の言葉や行動が、相手を傷つけていないか。相手の立場に立って想像する力を、常に磨いてほしいと思います。

◎ 言葉遣い、発する言葉に気をつけよう

『うざい』『きもい』『ムカつく』『死ね』など、日常的に当たり前に使っている傾向（口癖）にある**言葉が人を傷つける武器**になる。

これらの言葉は、使う方は軽い気持ちで発しても、浴びせられた方は自分の人格や存在、可能性を否定されたと感じ取り、心に深いダメージを与えます。人を傷つける武器、まさに**「言葉の暴力」**です。自分の言葉遣いにも注意してほしいと思います。

◎ 十人十色の資質・能力を認め合う

学校には、様々な生徒がいます。（それは社会でも、大人でも同じです！）

- ◎ 自分の意見を堂々と主張できる、発言力の強い子
- ◎ 自分の意見を言いたいけど、言ったらどう思われるか心配で言えない子
- ◎ 周囲の状況をじっと見守り、深く考えるおとなしい子
- ◎ 自分からコミュニケーションを図ることが、苦手な子
- ◎ みんなを引っ張るリーダーシップのある子
- ◎ 自分以外の他者のことを考えることができない子
- ◎ 人の痛みに敏感で、そっと寄り添うことができる子 など

これらはすべて、その人が持つ素晴らしい個性であり、資質・能力です。声の大きいことだけが正解ではありません。おとなしく静かに過ごす権利も、同じように尊重されるべきです。

自分とは価値観が違う、考え方が異なる。それはごく当たり前のことです。自分と違う人間を排除するのではなく、「そういう考え方もあるんだな」「自分にはない視点を持っているな」と、互いを認め合うこと。それこそが、社会に出てから最も必要とされる「真のコミュニケーション能力」です。

【保護者の皆さまへのお願い】

学校は、多様な人間関係を学ぶ「社会の縮図」でもあります。時にぶつかり、悩むこともありますが、それを乗り越えることで生徒たちは大きく成長します。

ご家庭におかれましては、お子様の様子に「いつもと違う変化」がないか、日頃の様子を見守っていただければ幸いです。また、他者を尊重することの大切さについて、ぜひご家庭でも話題にしてみてください。

私たちは、大人しい子も、活発な子も、すべての生徒が「自分はこのにいていいんだ」と実感できる居場所を、教職員一丸となって作っていくよう努めてまいります。何か気になることがございましたら、いつでも遠慮なく学校へご相談ください。

生徒の皆さん、隣にいるクラスメイト、友人の個性を尊重し、誰もが安心して楽しめる、最高の学校を一緒に作っていきましょう。